

中村御輿の縁起



中村御輿連

中村御輿の縁起

1.はじめに

中村町会は、上中村・中々村・下中村の各地域の自治会で構成され、人々の暮らしにかかる祭祀(住民の安寧・五穀豊穡を祈念)などが古くから協力して行われてきました。現在まで代々引き継がれている暮らしの文化的行事の代表的なものとして、盆踊りや御嶽神社のお祭りがあります。

こうしたなかの祭祀行事の一つに古くから「たる神輿」がありました。詳しい記録がないので時期はいつごろか定かではありませんが、御輿祭りの行事は途絶えておりました。

団塊の世代の子供たちが小学校入学を迎える昭和 50 年代においては、中村地域も新しい住宅が建ち並び町内会の人口も増えるなかで、少年野球をはじめ小山小学校の子供を中心としたサッカーが盛んに行われるようになりました。

スポーツに参加できる子供たちは男女・年令的にも限られ、他の子供たちは習い事・遊び場も限られたなかでのゲーム遊びなどでした。このような状況を背景に、上中村自治会行事を通した話の中で、このまちに「子供の心のふるさと」づくりに繋がるような御輿を復活させたい、公式・非公式に大先輩を交えた会話が何度か交わされ、こうした話がきっかけとなり手作り御輿の再興となりました。

2.御輿再興にこめられた願い

御輿作りの趣旨について、自治会・町内会員関係者の考え方の主な共通点は次の三点でした。

- ア. 市民の健康と暮らしの安寧
- イ. 五穀豊穡・豊年満作
- ウ. 「こどもの心のふるさと」づくり

3.手作り御輿の経緯

(1) 御輿づくりの働きかけと準備

昭和57年当時の町会長(田中房吉氏)の下に、自治会役員はじめ町内会の守屋利雄氏・鷹本為市氏などの強い要請を受け、その年の秋頃から田中房吉氏と協力要請を受けた齊藤勝信氏による基礎調査をはじめ田中邦助氏などの協力の下に諸準備が進められました。

- ア. 御輿の基本構図
「沼町内会の神輿」を調査・他の神輿を参考
- イ. 主な材料の提供
御輿の台座(ケヤキ)・上部本体(松・ヒノキ)・担ぎ棒(ヒノキ)等の主な資材提供は、境産業(株)臼井 福太郎氏。
- ウ. 御輿製作工房の設置
田中房吉氏の物置を無償借用

(2) 手探りの御輿製作

とにかく手がけてみなければ分からない、まさにボランティアによる手探りの大事業が献身的な二人の篤志家(田中房吉氏・齊藤勝信氏)の手で昭和57年の暮れごろから休日返上で取り組まれました。

- ア. 御輿本体の設計と製作は、田中房吉氏と齊藤勝信氏
ケヤキ材の台座は、カンナ器具が使えずサンダーと羽布の仕上げで苦労の連続。御輿の扉部分から屋根立ち上がりの組み立てに苦心。特に屋根の四方の曲がり飾りの作成と取り付けは苦心の傑作。
- イ. 四方の鳥居 大4基・小4基と欄間の製作は、岡本収一氏
蔵前の専門店にもない精巧なもの、当時白木の小さいので店頭価格で一基数万円以上と高価なもの。
- ウ. 屋根の銅版提供と銅版葺き屋根四方曲がり飾りの銅版取り付けは多摩住起建設(株)、細部の屋根葺き 御輿台座及び扉などの細かい飾り(真鍮板提供)の創作と担ぎ棒の製作は、岡本幸生氏
四方曲がりの銅版ハンダ付け屋根細部葺き、台座等の飾り付け創作は専門店にないオリジナルの苦心作。
- エ. 御輿本体のカシュ塗装は、齊藤勝信氏

4.御輿の基本装飾器具

(1).資金の調達

町内会員による寄付金及び多摩住起建設(株)の協力による。
(本資金により御輿飾備品及び初度用品・入魂式等経費を賄い、結果を町内会報告。)

(2).主な調達備品等(金額は昭和 58 年当時の金額)

- ア.鳳凰 大人用1基・屋根四方4基(30万円余)
- イ.飾り綱 2本(7 万円余)
- ウ.飾り鈴・四方飾り
- エ.大太鼓 1 基 守屋 良子氏寄贈(蔵前の専門店において、一統彫のものの優良品と鑑定)(張替代 5 万円余)
- オ.紅白綱 1 組 岡本真治氏寄贈
- カ.拍子木 各1組 臼井武次氏・岡本行夫氏・大貫紀一氏寄贈

5.御輿連の設置

- (1).御輿の完成 昭和58年5月
- (2).御輿連設置 昭和58年5月 町会役員会、御輿製作経過と決算報告
町会下部機関として御輿連設置承認
- 昭和58年6月 御輿連会員呼びかけ
規約案承認・御輿連設置

- (3).御輿の入魂式 昭和58年6月 中村少年サッカー場 井上 宮司
参加者 約240人(子供含む)
- (4).縁起作成 平成19年11月 上中村集会場で実施した25周年記念事業に併せて作成
- (5).運営の細目まとめ平成20年11月 平成20年度事業としてとりまとめを行う

6.奉安殿の設置

- (1).昭和58年 土地は、守屋欣雄氏の協力無償借用(旧中々村会館隣地)
- (2).平成13年 中村広場隣接地に移転、現在に至る。

町田市公園課等との調整はじめ土地の確保借用及び施設整備において、岡本芳巳氏・鈴木光彦氏・岡本尚志氏の協力。

7.御輿祭の実施経過

- (1).第1回～5回
- 日時 昭和58～62年(9月)
- 場所 現在のコスモ石油(当時は空き地)
- こどもの参加 約150人以上(アイスキャンデー200本)
- 連員の出店 やきそば・金魚すくい、ヨーヨー
- (2).第6回目から現在
- 盆踊りの日に合わせ、その日の午後を実施、現在に至る。

8.周年行事の経過

- (1).第1回 上中村会館 反省会を兼ねた演芸会
- (2).10周年 豆絞り手ぬぐい配布・連員による集い
- (3).15周年 上中村会館 紙飛行機 藁細工 演芸会
- (4).20周年 豆絞り手ぬぐい配布・演芸会
- (5).25周年 上中村会館 餅つき、手品、ビンゴ、演芸会、奉安殿の屋根改修

9.御輿連長の経過

初代	安齋 恭則	昭和58～59年
二代	片岡 正紀	昭和60～61年
三代	佐藤 保幸	昭和62～平成2年
四代	鷹本 利夫	平成 3～ 6年
五代	大貫 勇	平成 7～14年
六代	宮崎 亘	平成15～18年
七代	國本 秀夫	平成19～

10.中村御輿連規約・連員名簿 —— 別紙の通り

(注記)

本経緯に関する記述は、2007年11月1日現在、当初から田中房吉氏と共に御輿の製作に直接携わった齊藤勝信氏のお話を下に整理記録したものです。したがって、中村御輿の製作において大勢の町内会員による有形・無形の協力により支えられてきたことのすべてを網羅した記録でないことを付記いたします。

(文責 2007年11月 初代連長 安齋)
(文書化及び修正 第七代連長 國本)

2007年11月 初版
2008年1月 文言修正
2009年11月 文言修正追加
2010年8月 文言修正